

2020年7月21日

総長 田中優子 殿

専門職大学院教育課程連携協議会  
(イノベーション・マネジメント研究科)  
議長 五月女 健治<sup>1</sup>

専門職大学院教育課程連携協議会  
(イノベーション・マネジメント研究科)

2019年度 活動報告書

---

<sup>1</sup> 2019年度議長

**【委員会開催日及び開催場所】**

第1回 2019年8月9日 新一口坂校舎 303 教室

第2回 2020年2月19日 新一口坂校舎 303 教室

**【協議会委員構成】**

五月女 健治（法政大学イノベーション・マネジメント研究科長）

石島 隆（法政大学イノベーション・マネジメント研究科イノベーション・マネジメント専攻副専攻主任）

澁谷 裕以（ITコーディネータ協会会長）

高澤 彰（一般社団法人埼玉県中小企業診断協会会長）

坂田 甲一（トッパン・フォームズ株式会社 代表取締役社長）

**【協議会の目的】**

連携協議会（イノベーション・マネジメント研究科）は

- （1）産業界等との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- （2）産業界等との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

について審議し、総長及び研究科長に意見を述べるものとする。

**【活動方針】**

- 1 研究科における諸々の現状の教育課程や教育方法の現状を把握し、改善等を目的とした意見交換をする。
- 2 入学志願者等の実績向上を図るための意見交換をする。
- 3 研究科の取組状況や計画等について意見交換をする。
- 4 その他、必要な意見交換をする。

## 1 はじめに

初年度の活動を終えたところであるが、委員の先生方には、大変お忙しい中、修士論文として位置付けているプロジェクトの発表会を長時間に渡って聴講いただき、大変重要で具体的な改善案を提示いただいた。2020年度は、改善案に対する解決策を具体化し実施すると同時に、協議会の目的である「産業界等との連携による授業科目の開設等」の具体的なご協力をお願いしたいと考える。

## 2 現状の教育内容・教育方法について

イノベーション・マネジメント研究科に設置しているプロジェクトは、研究科の最たる特色の一つである。プロジェクトは研究科の多岐にわたる授業科目の中心に位置づけられ、学びの総括であり、実現可能なビジネスプランやリサーチ・ペーパーの作成を行っていくものである。

産業界が経営系専門職大学院に対して求める優秀な人材に照らし合わせて、知識だけでなく実行力等を兼ね備えた教育内容や教育方法について、意見を交わした。

### (1) 産業界の現状について

- a 現状、計画立案までできる人はいるが、「実行力」でスタックしてしまう。どうやって「実行力」を身につけた人を養成できるかが課題である。
- b 独立・起業した場合、2年間は満足な収入が得られないことが多いが、お客様は日々の活動を見ており、その活動が成果につながる。成功するまでやり続けること、こだわり続ける力が重要である。
- c 世界中のシステム開発の7割は失敗といわれている。技術的なパースペクティブだけではいけない。イノベーションの成功要因の一つは対話力である。システム開発もコミュニケーションの仕事である。
- d 多くのコンサルタントには小規模企業の知識がなく、現場に入っただけの実務的な支援能力が欠如している。ベンチャー企業の支援が演習できるとよい。

### (2) カリキュラム等について

- a ディプロマ・ポリシーのうち、DP4の「実行力」は独立した項目とすべき重要な事項である。

### (3) プロジェクトの現状について

- a ビジネスプラン型と特定ビジネス課題解決型は観点が異なるので発表は分けるべきである。

- b 発表における人数が学生も教員も多すぎる。
- c 教員のスタンスが同じ方向を向いていない。また、教員の間で評価基準（例えば「革新性」とは何か）に関する議論を徹底的に行ってほしい。
- d 評価基準の内容（革新性、実現性、発展性、・・・）を明確にして、教員の目線を合わせる必要がある。例えば、企業ではコンピテンシーの一つ一つについて定義を定めて、評価の視点を合わせている。
- e 評価基準のうち学生に公表しない部分があるので公表すべきである。
- f アカデミアの価値は徹底した先行研究にあり、先行研究の調査が十分に行われていない発表が多い。
- g 指導教員はもっと報告書を読みこんで、発表に臨み、より厳しく指導するべきである。

### 3 入学者、志願者の安定的な確保

2019 年度、2020 年度の入学者の状況から定員を満たす志願者を安定的に確保していることを確認した。

### 4 研究科の取り組みについて

大学独自の取り組みの実施状況や検討している新たな取り組みは以下のとおりである。

- (1) 国際認証 AACSB 取得に向けて、自己点検報告書をアップデートしていく。
- (2) 医療従事者を対象にヘルスケア・マネジメントをテーマとした、社会人学びなおしプログラムを開設する。

### 5 まとめ

以上の意見交換により、以下を本協議会として提言し、次回以降、その実行状況を点検したい。

提言 1	ディプロマ・ポリシーの見直しをすることが望まれる。
提言 2	プロジェクトの評価基準を再定義し、明文化、公表することが望まれる。
提言 3	プロジェクト発表等における学生へのフィードバックがより有効になるように実施方法を見直すことが望まれる。

以上